

らい 来ぶらり

図書館へ気軽にぶらりと来館していただきたいという思いで命名しました。

図書館を英語で「Library(ライブラリー)」といいます。

No. 153 6月号

2018年6月1日 発行

たつの市立図書館

龍野図書館 TEL (0791) 62-0469

新宮図書館 TEL (0791) 75-3332

揖保川図書館 TEL (0791) 72-7666

御津図書館 TEL (079) 322-1007

<http://www.city.tatsuno.lg.jp/library/index.html>

電子図書館へは、
右のQRコードから
(<https://www.d-library.jp/haritei/>)

播磨科学公園都市圏域
定住自立圏電子図書館

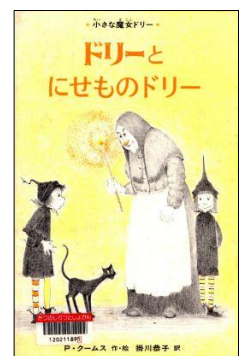


読書と私 No.143

「ドリーと私」

揖保川町 家 昌子

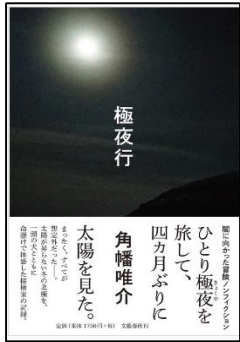
大学のときの話。大学のアトリエで色鉛筆画を描いていると、学友の愛子さんが「私、家さんの色鉛筆画好きだな」と突然声をかけてきた。あまり人を褒めることのない愛子さんの言葉に驚いて、描くのをやめて私も自分の色鉛筆画に黙って目を落とした。どうしてこのタッチで、どうしてこの色を使い、なぜこの絵を描いたか、自分で描いておきながらよくわからない。でも、眺めていると今描いている絵とは、まったく違うイメージが頭の中に広がる。それは、窓から見える輝く緑の木々と膝下に伝わってくる冷たい床の感触。冷たい床にペタンと座って絵本を探していた。絵とは全く関係のないイメージ。それは、どこか…。人の記憶とは不思議なもので、思い出すまで数日かかった。それは、昔の揖保川町の図書館。昔はスポーツセンターの一角にあった。幼稚園に行く前の幼い私はこの図書館に行くことがとても楽しみだった。大好きな本があったから。「小さな魔女ドリー」のお話。母に「えー、また借りるの?」と言われながら何度も借りた。ドリーの挿絵も色鉛筆画だったかなあ。淡い記憶が懐かしくなって、帰省したときに借りに行った。記憶の中の挿絵は、おぼろげだったのに、そこには確かに私とよく似たタッチの色鉛筆の挿絵があった。幼い頃にさよならしたきりですっかり忘れていたドリーが、私の中で血となり肉となってずっと側にいたのだった。幼い頃出会った美しい色彩の絵本は、私にとっては画集だった。絵本の影響で絵を描き続け、そのまま私は美術の世界にいる。絵本のある環境で育っていなければ別の私だったのかな?と思うときがある。でも、やっぱり同じ道にいったのかな?とも思う。



小さな魔女ドリー3 『ドリーとにせものドリー』

P・クームス 作 掛川 恭子 訳 あかね書房

※『読書と私』は図書館の利用者に執筆していただいています。



極夜とは昼間でも太陽が昇らない現象で、南極圏や北極圏では暗闇の日が数ヵ月続く。太陽のない世界とは、どのようなものなのか。

本書は、「極夜には根源的な未知がある」と考えた探検家の著者が、暗闇の北極

圏を4ヵ月かけて探検した記録である。

2016年冬、地球最北の村シオラパークに到着。極夜が始まったこの土地は、雪と氷に覆われた世界。著者は1頭の犬を相棒に、150kgもの荷物をのせた2台のそり橇をひいて暗闇を進む旅に出た。

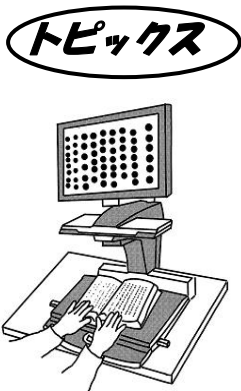
最初の難関である標高1,000メートルの氷河に登高した後も、強烈なブリザードにあおられ、海氷には乱氷群が立ちはだかるなど、予想以上の苦難が続く。旅の半ばにして備蓄食糧を白熊に食い荒らされ、食べ物を失った時には

「終わった…」と述懐している。犬もガリガリに痩せていった。日照を得られない旅は困難を極め、飢えや寒さ以上に、真っ暗なこと、長く続く闇が精神に大きな影響を及ぼした、と著者は述べている。人を寄せつけない闇の深さに身体も心も疲弊していくが、必ず生きて還ると誓って旅を続けるなか、ようやく極夜が明けた。待ち望んでいた太陽を見た著者の頬を涙が伝う。

人にとって太陽とは、光とは何なのか。極北の地で、死と隣り合わせの探検を通して著者が感じたことが、圧倒的なリアリティをもって胸に迫る。

私たち現代人は科学の力で闇を駆逐し、夜でも明るさを手に入れた。しかし、便利さや快適さの一方で、自然に対する原初の感覚は失われつつある。真の闇を経験した後の最初の太陽を見た探検家が何を思ったかを、ぜひ本書で体験してほしい。

(御津図書館 岡村)



新宮図書館に拡大読書器を 寄贈していただきました

拡大読書器を使用することで、文字を大きくさせたり、白黒反転させたりすることができます。利用方法など詳しいことは、新宮図書館カウンターにお尋ねください。

学びのスペースを開設しました [龍野図書館・新宮図書館]

自分の資料等を持ち込んで学習ができます。利用対象者は市内在住、在勤、在学者です。登録方法や開設日など詳しいことは、各図書館カウンターにお尋ねください。

イベントのお知らせ

※申込、問い合わせは各図書館まで

新宮図書館

多肉植物の寄せ植え教室

様々な種類があって、インテリアとしても美しい多肉植物の寄せ植えにチャレンジしませんか？

- 【日時】6月24日(日)
10時30分～11時30分
- 【場所】新宮図書館 研修室
- 【対象】一般(小学5年生以上)
- 【定員】20名(先着順)
- 【持ち物】15cmぐらいの植木鉢、
割り箸1膳、新聞紙2枚
- 【申込】新宮図書館(電話可)



揖保川図書館

おひとりさまからの鉄道旅行

鉄道を利用した格安で見どころいっぱいのおひとりさまからの旅行術について講演会を行います。(講演後に質疑応答もあります)

- 【日時】7月1日(日)
10時～12時
- 【講師】横家伸一氏(たつの市在住)
- 【場所】アクアホール3階 研修室
- 【対象】一般
- 【定員】40名(先着順)
- 【申込】揖保川図書館(電話可)



『LCR シルバーエイジ 鉄道夢紀行』
横家伸一 著 文芸社

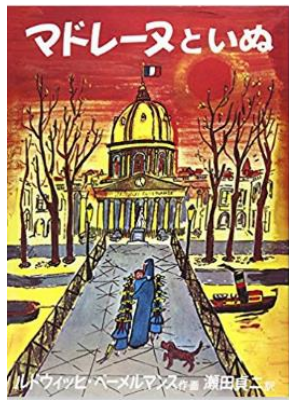
おすすめする子どもの本・141

『マドレーヌといぬ』 ルドウィッヒ・ペーメルマンズ 作 瀬田 貞二 訳 福音館書店

パリの寄宿舎に12人の女の子と先生のミス・クラベルが住んでいました。その中で一番おちびで怖いもの知らずなのがマドレーヌでした。

ある日、みんなで日課の散歩に出かけた時、橋の欄干らんかんを歩いていたマドレーヌが川に落ちてしまいます。溺れかけたマドレーヌを助けたのは一匹の犬でした。みんなはその犬をジュヌビエールと名付け、新しい仲間として迎えました。ジュヌビエールはとても役に立つ、利口な犬でした。

ところが学校検査のため評議員たちがやってきて、ジュヌビエールを見つけるなり追い払ってしま



ました。マドレーヌは泣きながら抗議をし、なんとかしてジュヌビエールを探そうと、パリ中を歩き回りましたが見つかることができませんでした。ところがその日の夜中ミス・クラベルは、外でジュヌビエールが吠えているのを見つけました。みんなは喜び、誰がジュヌビエールと一緒に寝るのかと大騒ぎをしてミス・クラベルに叱られます。けれどもまたミス・クラベルがジュヌビエールの様子を見に行くと、なんと12匹の子犬が生まれていたのです。

12人の女の子と同じ数の子犬が生まれた結末に満足でき、マドレーヌたちがジュヌビエールを探して駆けまわる色鮮やかなパリの街並みの絵が印象的です。読んであげるなら4歳くらいから。

(揖保川図書館 二井優)

『こぶたのピクルス』 小風 さち 文 夏目 ちさ 絵 福音館書店



朝です。こぶたのピクルスが、学校へ行く時間です。お母さんにわすれ物はないかと聞かれたピクルスは、大きな声でカバンの中を点検しました。「教科書、よし！ノート、よし！エンピツ、よし！ハンカチ、よし！わすれ物は、ひとつもなし！」

ピクルスはスキップしながら出かけ、畑から帰ってきたお父さんに、「ぼく、わすれ物が、ひとつもないんだ」と言いました。次に、ピクルスは牛の牛乳屋さんに出会い、「ぼく、わすれ物が、ひとつもないんだ」と言うと、牛乳さんはあわてて、「いのぶたさんの家に、牛乳を配達するのをわすれてきた」と言いました。ピクルスは学校に行く途中で、いのぶたさんに牛乳を届けて

あげることにしました。ロバのパン屋さんの配達わすれも引き受けました。そのあと出会った新聞屋さんは、ピクルスのお父さんに新聞を配達しわすれていて、ピクルスは家まで新聞を配達することにしました。新聞を渡して得意そうなピクルスに、お母さんは「おまえ、学校へいくのを、わすれているよ」と言いました。（「ピクルスのわすれ物」）

ちょっぴり失敗もあるけれど、元気なピクルスの毎日は楽しいことがいっぱいです。卵を買ってくるように頼まれたピクルスが、卵を割らないように、「ぬきあし、さしあし、卵あし」と気をつけて歩く話（「ピクルスと卵」）などユーモアにあふれたお話が4編おさめられています。読んであげるなら5歳くらいから。

(新宮図書館 藤川)



6月の行事予定

※詳細は各館へお問い合わせください。

★ えほんのじかん・・・絵本の読み聞かせ、わらべ歌など

龍野図書館 【対象】1～3歳児、保護者

9日(土)・16日(土) 11時～11時20分
『タンタンのぼうし』他

新宮図書館 【対象】2～4歳児、保護者

11日(月)・17日(日)・25日(月) 11時～11時20分
『ぼくのながぐつ』他

揖保川図書館 【対象】2～4歳児、保護者

2日(土)・9日(土)・16日(土) 10時30分～10時50分
『かささしてあげるね』他

御津図書館

【対象】1～4歳児、保護者

10日(日)・17日(日)
11時～11時20分
『くだもの』他

【対象】5歳児～

10日(日)・17日(日)
11時30分～11時50分
『ポケットのないカンガルー』他

★ おはなしのじかん【対象：5歳児以上】・・・昔話などの語り、絵本の読み聞かせなど

新宮図書館

2日(土)・9日(土)・16日(土)・23日(土)・
30日(土) 10時15分～10時45分
『ひなどりとネコ』他

揖保川図書館

2日(土)・9日(土)・16日(土)
11時～11時30分
『くわずにようぼう』他

★ 読書会【対象：一般】・・・本を読んで感想を話し合う

龍野図書館

8日(金)
10時～11時30分
『深い河』
遠藤 周作 著

揖保川図書館

15日(金)
10時～12時
『日本の神話と十大昔話』
楠山 正雄 著

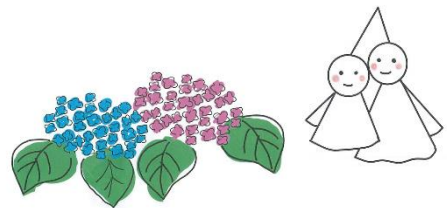
御津図書館

20日(水)
13時30分～15時30分
『夜想曲集』
カズオ・イシグロ 著

★ 子どもの本を読む会【対象：一般】

龍野図書館

5日(火) 10時～11時30分
『遊んで、遊んで、遊びました』シャスティーン・ユンググレーン 著



館内特集・展示 (一部紹介)

龍野図書館

雨・あめ ☂

日本には、古来より雨の種類を表す多くの言葉があり、表現はとても細やかです。また、大地に実りをもたらす雨ですが、降りすぎると災害の引き金にもなります。梅雨のこの時季、雨について考えてみてはどうでしょう？

【期間】6月29日まで

新宮図書館

ことばって おもしろい!

変化することばに対応すべく広辞苑第7版が出版されました。そこで、逆さ言葉、だじゃれなどの言葉遊びから、オノマトペ、敬語、ことわざ、心に響く名言、格言などの本を集めてみました。

【期間】6月28日まで

揖保川図書館

明治は遠くになりにけり

明治維新から150年。近代国家への転換期となった激動の時代を振り返ってみませんか。

こんなものつくれます

手づくり雑貨からエクステリアまで、気軽にDIYを楽しもう!

【期間】7月15日まで

御津図書館

「緑のある暮らし」

緑は、人の心を和ませてくれる優しい力を持っています。いつもの暮らしの中に緑を取り入れるためのさまざまな方法を紹介します。

【期間】6月27日まで